第48回葛巻高校卒業式

くずまき山村留学第１期生含む46人が巣立つ

卒業生を代表して葛巻高校で学んだ３年間の思い出や感謝の言葉を述べる江田彩夏さん

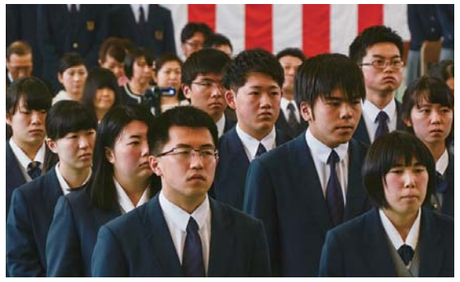
葛巻高校（上柿剛校長、生徒１３７人）の第48回卒業式は３月１日、同校体育館で行われ、「くずまき山村留学」の第１期生１人を含む46人が上柿校長から卒業証書を手渡されました。

上柿校長は「感謝の気持ちを持ち続け、人から感謝される生き方をし、失敗を恐れず自己の可能性に挑戦し続けてください」とはなむけの言葉を贈り、鈴木重男町長は「それぞれの道へ進み新たな知識や技術、技を習得すると思います。いつか葛巻で活躍し、若い力で次の葛巻をつくっていってほしい」と祝辞を述べました。

在校生を代表して石角南花（はな）さん（２年）が送辞を贈ると、卒業生を代表して江田彩夏さんが「３年間見守っていただいた方々の優しさや強さを今度は私たちが周りの人や社会へ与える人間となれるよう努力します」と答辞を述べました。

慣れ親しんだ学び舎を離れ新たな一歩を踏み出す卒業生たちは、希望に満ちた晴れやかな表情で体育館を後にしていました。

卒業証書を受け取る卒業生



真剣な表情であいさつに耳を傾ける卒業生たち

在校生に手を振り別れを惜しむ姿も

Interview

夢から目標へ

持続可能な牧場経営者を目指し新たな一歩を踏み出した山村留学第１期卒業生

くずまき山村留学第１期卒業生

大澤　然（ぜん）さん

町が全国から葛巻高校への入学者を募集する「くずまき山村留学制度」を利用して同校へ入学した大澤さん。山村留学の第１期卒業生として学び舎を巣立ち、４月から北海道立農業大学校の畜産経営学科へ進学。新たな目標へと歩み出しました。

町で過ごした３年間の思い出や今後の夢についてお話を伺いました。

▼思い出の場所は？

▽四日市地区の「隠れ里」には、ときどき遊びに行っていました。自転車で通学した時期もあるので、宿泊先のプラトーから高校までの道のりは、特にも思い出深い景色です。

▼印象に残っていることは？

▽とにかく牛乳がおいしいことです。宿泊先や学校給食などで毎日牛乳を飲んでいました。そのおかげか、この３年間で身長が12センチも伸びました。

▼今後の夢（目標）は？

▽あこがれだった牧場経営者の夢は変わっていません。ただ、続けていく厳しさを葛巻で学び、牧場を続けていける経営者になることが重要だと認識が変わりました。進学先では、何を学ぶべきか見定めながら、限界を決めず選択肢の幅を広げていきたいです。

▼大澤さんにとって「葛巻町」とは？

▽第２のふるさとです。町で過ごした３年間は、これから自分が大きく成長するための準備期間だったと思います。たくさん失敗もしましたが、それも含めて将来に生かしていきたいです。

▼最後に、ひと言。

▽葛巻町へ来ることを後押ししてくれた親や勧めてくれた中学校の先生に感謝しています。また、これまで宿泊先でお世話になった方々や支えてくださった町の皆さまにも感謝しています。ありがとうございました。

子どもたちへ心温まる贈りもの

葛巻高校に「小さな親切」実行章

３月６日、葛巻高校（上柿剛校長、生徒137人）に、小さな親切運動岩手県本部（鈴木恒夫代表）から「小さな親切」実行章が贈られました。

同校では、平成17年に生徒会が中心となり町内の保育園と児童館の子どもたちにクリスマスプレゼントを贈る活動を開始。現在は、家庭クラブが中心となり生徒会と連携しながら活動を続け、サンタクロースに扮（ふん）した生徒らが子どもたちへ心温まるプレゼントを贈り続けています。

家庭クラブ委員長の山形真未さんは、「クラブ活動の一環として行っている活動が、小さな親切実行章をいただくことにつながり、とてもうれしいです。今後も子どもたちの笑顔のために続けていきたいと思います」と思いを新たにしていました。

同校の家庭クラブでは、目の不自由な人のために「広報くずまき」を朗読しテープに録音する活動も行っています。

小さな親切実行章を贈られた葛巻高校の皆さん（左から中村美咲家庭クラブ顧問、家庭クラブ委員長の山形真未さん、生徒会長の石角南花さん、近藤孝生徒指導部長）